

### 新規電源開発地点発掘プロジェクト

- 再生可能エネルギーの供給拡大を通じて、地域の発展に貢献していくためには、企業局の経営の安定を図りながら、長野県の貴重な水資源を最大限活用できる新規水力発電所の建設を推進することが必要
- 現行の固定価格買取制度(FIT)を活用した新規発電所整備を加速すべく、関係部局横断による推進体制を整備し、市町村等にも地域の状況の把握など御協力をいただきながら、早期に開発可能な候補地点を発掘

### 新規電源開発地点発掘プロジェクト推進会議

担当部局：企画振興部・環境部・産業労働部・農政部  
林務部・建設部・企業局

会議経過：第1回 2018/ 8/ 6 発足  
第2回 2018/11/27 1次選定リスト(4件) 公表  
第3回 2019/ 1/17 2次選定リスト(6件) 公表  
第4回 2019/ 7/30 進捗状況確認

### 新規発電所建設等の状況

区分	発電所名 (地点名)	所在地	最大出力 (想定)	年間発電電力量 (想定)	進捗状況	運転開始 (予定)	備考	
新規発電所建設	建設中	① 横川蛇石	辰野町	199kW	1,600千kWh (約440世帯)	県管理のダムを活用 H29.8 契約* → H30.12着工 建屋仕上げ施工中、水圧管・水車発電機据付中	R2年度	新規電源開発掘削プロジェクト
		② 信州もみじ湖	箕輪町	199kW	1,100千kWh (約310世帯)	県管理のダムを活用 H30.3 契約* → R1.8着工 基礎施工中、放水池施工中	R3年度	
		③ くだもの里 まつかわ	松川町	380kW	2,100千kWh (約580世帯)	県管理のダムを活用 H30.3 契約* → R1.10着工 基礎施工中、水圧管路施工中	R3年度	
		④ 小渋えんまん	松川町	199kW	1,160千kWh (約320世帯)	小渋第2発電所の機器冷却水を活用 H31.3 契約* → R1.12着工	R3年度	
	着手	⑤ 与田切川 上流地点	飯島町	1,400kW*	5,800千kWh程度 (約1,600世帯)	与田切発電所取水口の上流部への建設 R1/9/25公告* → 本年度内工事着手予定	R6年度	
		⑥ 湯川ダム 地点	御代田町	199kW*	1,270千kWh程度 (約350世帯)	県管理のダムを活用 R1/10/17公告* → 本年度内工事着手予定	R5年度	
		⑦ 湯の瀬ダム 地点	長野市	850kW*	3,600千kWh程度 (約1,000世帯)	企業局管理のダムを活用 R1/12/19公告* → 本年度内工事着手予定	R6年度	
		⑧ 秋山地点	川上村	100～150kW程度	500～900千kWh程度 (約150～250世帯)	県管理の砂防ダムを活用 R1/12/18公告* → 本年度内工事着手予定	R5年度	
	調査中	⑨ 大泉地点	南箕輪村	50～150kW程度	900千kWh程度 (約250世帯)	県管理の砂防ダムを活用 流量資料を取得する等、基本情報の整理中		
		⑩ 奥裾花地点	長野市	30～50kW程度	300千kWh程度 (約80世帯)	奥裾花第2発電所の放水路を活用 狭窄部のため、水車の選定等を含め比較検討中		
		⑪ 立沢ため池 地点	富士見町	50～150kW程度	700千kWh程度 (約200世帯)	かんがい用水路を活用 流量資料を取得する等、基本情報の整理中		
		⑫ 七久保北村 地点	飯島町	50～150kW程度	1,000千kWh程度 (約300世帯)	〃		
(参考)大規模改修	改修中	㊦ 西天竜	伊那市	3,000kW	16,000千kWh程度 (約4,450世帯)	既存の水車1台→2台により効率化 H30.1 着工→基礎工事中、水圧管敷設中	R3年度	
		㊧ 春近	伊那市	23,600kW*	100,000千kWh* (約27,800世帯)	R1/8/17公告* → 本年度内工事着手予定	R7年度	
	着手	㊨ 美和	伊那市	12,200kW*	39,600千kWh* (約11,000世帯)	R1/9/25公告* → 本年度内工事着手予定	R7年度	
		㊩ 与田切	飯島町	6,300kW*	21,800千kWh* (約6,100世帯)	R1/10/29公告* → 本年度内工事着手予定	R6年度	

※ 詳細設計により、増強の可能性あり \* 設計施工一体型の公募型プロポーザル方式による発注

## 水力発電所建設による地域のメリット

- ・災害時の非常用電源としての活用
- ・小中学生の再生可能エネルギーの学習の場
- ・所在市町村交付金
- ・水の恵みを未来へつなぐ交付金 など

## 建設中、着手している発電所

### 県管理ダム・砂防ダムの活用

- ・県管理ダム等の直下に建設
- ・ダムの落差と、放流水(堰堤に流れ込む水)を有効活用して発電
  - 〔 既設放流管から分岐し発電所へ導水し、ダム直下へ放水  
ダム下流の河川流量は従前どおり 〕
- ・発電所名称は地元小中学生等から公募
- ・発電所建屋外壁を木質化し周辺環境に調和

### ① 横川蛇石(建設中)



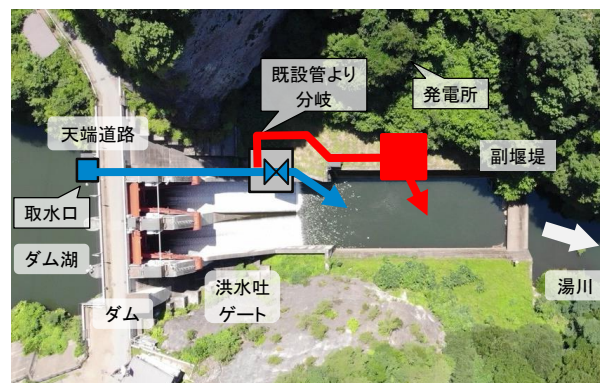
### ② 信州もみじ湖(建設中)



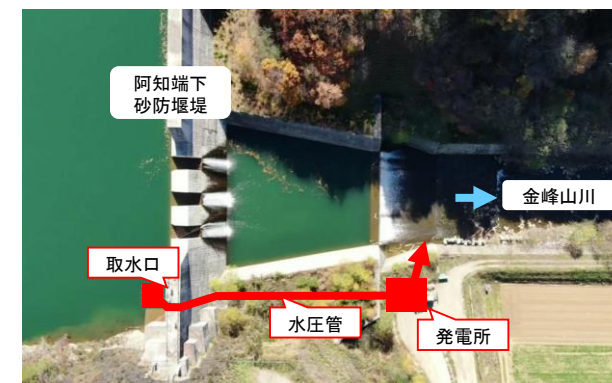
### ③ くだものの里まつかわ(建設中)



### ⑥ 湯川ダム地点(着手)



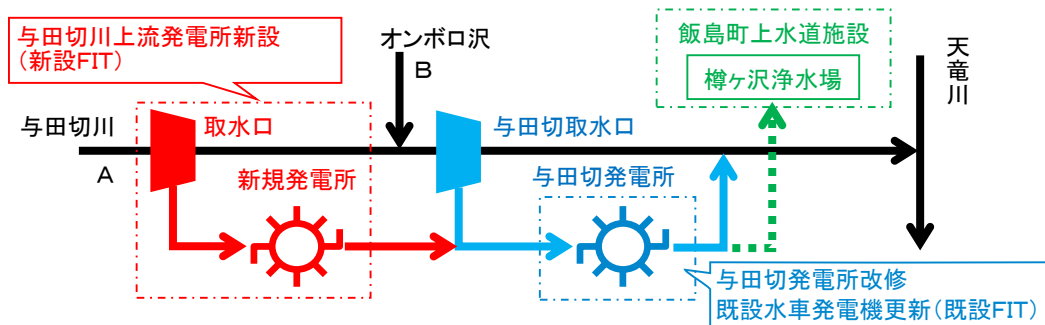
### ⑧ 秋山地点(着手)





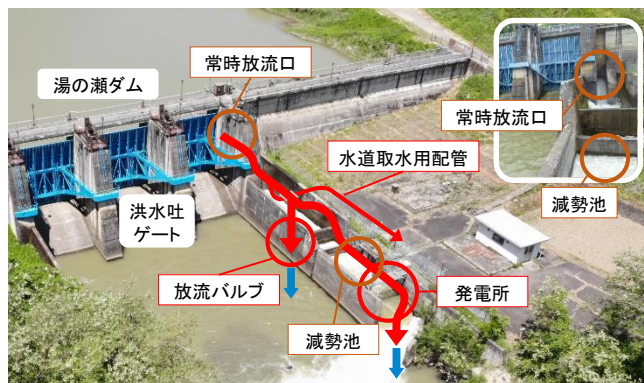
## ⑤ 与田切川上流地点(着手)

- ・与田切川は、出水時に濁水・土石流が発生しやすく、既設与田切発電所は、施設保護のため出水時には発電を停止
- ・濁水等の主な発生源は支流のオンボロ沢 ⇒ 出水時に濁水が発生しにくい与田切川上流部から取水する新規発電所を計画
- ・メリット ①既設発電所の発電量アップ ……出水時にも新規発電所からの取水により発電を継続できるため、発電量が増加  
②飯島町水道事業への寄与 ……水質の安定、出水時の取水制限(断水)を回避、浄水費用(薬品費)や職員負担の軽減  
③再生可能エネルギーの供給拡大 ……新規発電所は単独での採算は厳しいが、現行FIT制度を活用し、メリット①②により事業化



## ⑦ 湯の瀬ダム地点(着手)

- ・常時放流口を活用し、現在の減勢池付近に発電所を建設 (発電所建設に伴うダム本体や水道施設への影響を少なくするため)
- ・発電放流とバルブ放流により、ダム下流への放流量は従前どおり



## ④ 小渋えんまん(建設中)

- ・未利用エネルギーである小渋第2発電所の機器冷却水を活用

